

社会福祉法人 すぎやまの家 定款

第1章 総 則

(目 的)

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

- (1) 第一種社会福祉事業
 - (イ) 障害者支援施設の経営
- (2) 第二種社会福祉事業
 - (イ) 障害福祉サービス事業の経営
 - (ロ) 計画相談支援事業の経営

(名 称)

第2条 この法人は、社会福祉法人すぎやまの家という。

(経営の原則等)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

- 2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、経済的に困窮する者等を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

(事業所の所在地)

第4条 この法人の事務所を滋賀県高島市今津町杉山253番地に置く。

第2章 評 議 員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員7名以上を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

- 2 評議員選任・解任委員会は、監事1名、事務局員1名、外部委員1名の合計3名で構成する。
- 3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。

- 4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
- 5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員が出席し、かつ、賛成することを要する。

(評議員の資格)

第7条 社会福祉法第40条第4項及び第5項を遵守するとともに、この法人の評議員のうちには、評議員のいずれか1人及びその親族その他特殊の関係がある者(租税特別措置法施行令第25条の17第6項第1号に規定するものをいう。以下同じ。)の合計数が、評議員総数(現在数)の3分の1を超えて含まれることにならない。

(評議員の任期)

- 第8条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。
- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。
 - 3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第9条 評議員に対して、各年度の総額が100万円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬として支給することができる。

第3章 評議員会

(構成)

- 第10条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。
- 2 評議員会に議長を置く。
 - 3 議長は、その都度評議員の互選で定める。

(権限)

- 第11条 評議員会は、次の事項について決議する。
- (1) 理事及び監事の選任又は解任
 - (2) 理事及び監事の報酬等の額
 - (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
 - (4) 事業計画及び収支予算の承認
 - (5) 計算書類(貸借対照表及び収支計算書)及び財産目録の承認
 - (6) 臨機の措置(予算外の新たな義務の負担及び権利の放棄)
 - (7) 定款の変更
 - (8) 残余財産の処分
 - (9) 基本財産の処分
 - (10) 社会福祉充実計画の承認

(11) 解 散

(12) その他評議員で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開 催)

第12条 評議員会は、定時評議員会として毎年度6月に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招 集)

第13条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決 議)

第14条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

(1) 監事の選任

(2) 定款の変更

(3) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。なお、理事又は監事の候補者の合計数が第16条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議 事 録)

第15条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名は、前項の議事録に署名又は記名押印する。

第4章 役員及び職員

(役員の数)

第16条 この法人には、次の役員を置く。

(1) 理事6名以上

(2) 監事2名以上

2 理事のうち1名を理事長とする。

(役員を選任)

第17条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 理事長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(役員資格)

第18条 社会福祉法第44条第6項を遵守するとともに、この法人の理事のうちには、理事のいずれか1人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が理事総数(現在数)の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

2 社会福祉法第44条第7項を遵守するとともに、この法人の監事には、この法人の理事(その親族その他特殊の関係がある者を含む。)及び評議員(その親族その他特殊の関係がある者を含む。)並びに、この法人の職員が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係がある者であってはならない。

(理事の職務及び権限)

第19条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。

3 理事長は、毎会計年度に4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第20条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第21条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結のときまでとし、再任を妨げない。

2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとすることができる。

3 理事又は監事は、第16条に定める定数に足りなくなる時は、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第22条 理事又は監事が、次のいずれかに該当する時は、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第23条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

(職員)

第24条 この法人に、職員を置く。

2 この法人の設置経営する事業所の長ほか重要な職員（以下「管理者等」）は、理事会において、選任及び解任する。

3 管理者等以外の職員は、理事長が任免する。

第5章 理事会

(構成)

第25条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第26条 理事会は、次の職務を担う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長の選定及び解職

(招集)

第27条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき、又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第28条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、次の事項に関する決議は、理事総数（現在数）の3分の2以上の多数をもって行わなければならない。

- (1) 事業計画及び収支予算の承認
- (2) 基本財産の処分
- (3) 臨機の措置（予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄）

2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議 事 録)

第29条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 当該理事会に出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名又は記名押印する。

第6章 資 産 及 び 会 計

(資産の区分)

第30条 この法人の資産は、これを分けて基本財産とその他財産の二種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

【土地】

(1)	滋賀県高島市今津町杉山字関原 230 番 1	畑	49.00 m ²
(2)	滋賀県高島市今津町杉山字関原 237 番	畑	135.00 m ²
(3)	滋賀県高島市今津町杉山字関原 243 番	畑	132.00 m ²
(4)	滋賀県高島市今津町杉山字関原 267 番	原野	244.00 m ²
(5)	滋賀県高島市今津町杉山字関原 238 番	田	115.00 m ²
(6)	滋賀県高島市今津町杉山字関原 253 番	田	1,662.00 m ²
(7)	滋賀県高島市今津町杉山字関原 225 番	田	644.00 m ²
(8)	滋賀県高島市今津町杉山字関原 254 番 1	原野	125.00 m ²
(9)	滋賀県高島市今津町杉山字関原 251 番 1	雑種地	126.00 m ²
(10)	滋賀県高島市今津町杉山字関原 248 番 1	雑種地	434.00 m ²
(11)	滋賀県高島市今津町杉山字関原 253 番 1	原野	66.00 m ²
(12)	滋賀県高島市今津町杉山字関原 252 番	原野	1,560.00 m ²
(13)	滋賀県高島市今津町杉山字関原 259 番 2	山林	365.00 m ²
(14)	滋賀県高島市今津町杉山字関原 239 番	宅地	171.90 m ²
(15)	滋賀県高島市今津町杉山字関原 241 番	宅地	125.61 m ²
(16)	滋賀県高島市今津町杉山字関原 311 番	宅地	72.72 m ²
(17)	滋賀県高島市今津町弘川 1432 番 19	宅地	197.79 m ²
(18)	滋賀県高島市今津町弘川 1432 番 20	宅地	254.88 m ²
(19)	滋賀県高島市今津町弘川 1432 番 21	宅地	228.46 m ²

【建物】

(20)	滋賀県高島市今津町杉山字関原 253 番地、267 番地 杉山寮本体 (居住棟) 鉄骨造ルーフィング葺 2 階建	1 階 386.50 m ² 2 階 479.88 m ²
	杉山寮職員宿舎 (本体付属建物) 鉄骨造亜鉛メッキ鉄板葺 2 階建	1 階 45.54 m ² 2 階 45.54 m ²
	杉山寮プロパン庫 (本体付属建物) コンクリートブロック造亜鉛メッキ鉄板葺平屋建	6.00 m ²
	杉山寮こころね作業棟 (本体付属建物) 鉄骨造合金メッキ鋼板葺平屋建	73.16 m ²
(21)	滋賀県高島市今津町杉山字関原 239 番地 杉山ゲストハウス 木造草葺平屋建	89.25 m ²
	倉庫 (上記付属建物) 木造瓦葺 2 階建	1 階 33.05 m ² 2 階 13.22 m ²
	物置 (上記付属建物) 木造瓦葺平屋建	46.28 m ²

- | | | | |
|------|--|---------------|--|
| (22) | 滋賀県高島市今津町弘川字政道 1432 番地 20
グループホーム「ひろかわ」 | 木造瓦葺 2 階建 | 1 階 93.82 m ²
2 階 94.97 m ² |
| (23) | 滋賀県高島市今津町弘川字政道 1432 番地 19
障害者福祉施設 | 木造亜鉛メッキ鋼板葺平屋建 | 62.93 m ² |

3 その他財産は、基本財産以外の財産とする。

4 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第 2 項に掲げるため、必要な手続をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第 3 1 条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会において理事総数（現在数）の 3 分の 2 以上の同意及び評議員会の承認を得て、高島市長の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、高島市長の承認は必要としない。

- (1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- (2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

(資産の管理)

第 3 2 条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

(事業計画及び収支予算)

第 3 3 条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会において理事総数（現在数）の 3 分の 2 以上の同意及び評議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第 3 4 条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）
- (5) 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書
- (6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(1) 監査報告

(2) 理事及び監事並びに評議員の名簿

(3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類

(4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第35条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第36条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第37条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会において理事総数(現在数)の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を得なければならない。

(保有する株式に係る議決権の行使)

第38条 この法人が保有する株式(出資)について、その株式(出資)に係る議決権を行使する場合には、あらかじめ理事会において理事総数(現在数)の3分の2以上の承認を要する。

第7章 解 散

(解 散)

第39条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第40条 解散(合併又は破産による解散を除く。)した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

第8章 定 款 の 変 更

(定款の変更)

第41条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、高島市長の認可(社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。)を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を高島市長に届け出なければならない。

第9章 公告の方法その他

(公告の方法)

第42条 この法人の公告は、社会福祉法人すぎやまの家の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第43条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則 1

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理事長	井 上 秀 次
理 事	橋 本 浩 明
〃	増 田 正 司
〃	岸 本 勘 也
〃	堀 江 諭
〃	井 上 四 郎 太 夫

監 事	山 口 達 也
〃	松 本 良 平

附 則 2

1. この定款は、平成19年5月12日より施行する。
2. 平成21年9月4日一部変更(事業指定による字句の訂正)。
3. 平成22年3月9日基本財産の増加。(こころね作業棟(本体付属建物))
4. 平成24年12月27日基本財産の増加、基本財産の掲載変更(第19条)
5. 平成25年5月25日社会福祉法人所管庁の市長への権限移譲に伴う変更(字句の訂正)
6. 平成26年3月27日事業の追加(相談支援事業所の開設による)
7. 平成27年3月19日改正(組織編成の変更等)
8. 平成28年5月25日基本財産の増加。(多目的ハウス)
9. 平成29年4月1日社会福祉法人制度改革による改正(制度改革による変更)

原本に相違ないことを証明します。

平成 年 月 日
社会福祉法人 すぎやまの家
理事長 橋 本 浩 明

社会福祉法人すぎやまの家役員等報酬規程

(目 的)

第1条 この規程は、社会福祉法人すぎやまの家（以下「法人」という。）定款第9条及び第23条の規定に基づき、役員等の報酬等について定めるものとする。

(定 義)

第2条 この規程でいう役員等とは、役員である理事、監事、評議員、評議員選任・解任委員会委員、第三者委員及び将来検討委員会委員をいう。
2 報酬は、法人と委任関係にある役員等の職務執行の対価として支払われるものである。

(役員等の報酬等の支給方法)

第3条 役員等の報酬は、別表により支給する。
2 報酬は、当月発生分を毎月25日（支給日が銀行休業日の場合は、前営業日）に当該役員等の指定する銀行等の預金口座へ振り込みにより支払う。
3 常勤役員には、職員給与規程に準じた支給とする。
4 評議員等非常勤役員へは当該会議等に出席した都度、支給する。
5 役員等には、賞与、退職手当は支給しない。

(出張旅費)

第4条 役員等が法人業務のために出張したときは、職員の旅費規程の例により旅費等を支払う。
2 旅費等は、出張終了後支払うこととするが、必要により事前に概算額を支払い、出張終了後精算することができる。

(役員等の職務証跡)

第5条 常勤役員は、法人職務証跡資料として、出勤簿又はタイムカード（職務証跡）を作成するものとする。

(公 表)

第6条 法人は、この規程をもって、社会福祉法第59条の2第1項第2号に定める報酬等の支給の基準として公表する。

(改 廃)

第7条 この規程の改廃は、評議員会の決議を経て行う。

附則

1. この規程は、平成29年4月1日から施行する。
2. この規程は、平成29年8月1日から施行する。（一覧表の改正）
3. この規程は、平成30年3月21日一部改正（一覧表の改正）
4. この規程は、令和元年6月12日一部改正（将来検討委員会委員の追加等）

社会福祉法人すぎやまの家 役員等報酬一覧表

職名	勤務形態	報酬額		備考
		区分	金額	
理事長	常勤	年額	2,400,000 円	月額制→年俸制 (12ヶ月割り)
理事	常勤	日額	5,000 円	必要に応じての業務出席。 (理事長の招集による。)
	非常勤	日額	5,000 円	必要に応じての業務出席。 (理事長の招集による。)
監事	非常勤	日額	5,000 円	必要に応じての業務出席。 (理事長の招集による。)
評議員	非常勤	日額	5,000 円	必要に応じての業務出席。 (理事長の招集による。)
評議員選任・解任委員会委員	非常勤	日額	5,000 円	必要に応じての業務出席。 (理事長の招集による。)
第三者委員会委員	非常勤	日額	5,000 円	必要に応じての業務出席。 (理事長の招集による。)
将来検討委員会委員	非常勤	日額	5,000 円	必要に応じての業務出席。 (理事長の招集による。)

1. 第三者委員会開催については、従来の不定期開催より四半期毎の定期開催とする。

※職員給与を支給している者には支給しない。